

第二学期始業式式辞

令和6年8月28日

※ イベントが多い夏休み・・・充実しましたね

夏休み、暑い日が続きましたね。二学期が始まったとたんに台風に振り回されそうです。

夏休みに入ってすぐ野球の県大会お疲れ様でした。残念ながら西条に負けてしまいましたが、多くの皆さんが応援に参加して盛り上げてくださいました。学校がまとまりを見せた時です。ありがとうございます。新人戦で新チームが一回戦で西条高校にリベンジした試合、見ていました。秋の大会に向けて頑張ってください。吹奏楽部も全日本吹奏楽コンクール銅賞おめでとう。小松のふるさと祭りでも大活躍しましたね。また、そのときの有志による大名行列も圧巻でした。経済研究部やチームカメラ、ツバキの皆さんも石鎚黒茶の店のお疲れ様でした。小松未来塾で中学生や地域の方に水引作成を伝授していた方もいましたね。私が参加できたのはほんの一部ですが、いろいろなところで素晴らしい充実した夏を送った方が多かったと思います。

※ 自分で自分をほめたい・・・頑張ったのは君だから 自分で決めた道だから

夏休み中はちょうどパリオリンピックがあり、日頃見る機会のない競技もたくさん見ることができ、不規則な生活になってしまいました。松山英樹のゴルフは、地元出身ということで最後まで見た競技の一つです。よくヒデキゴルフガーデンに打ちっぱなしに行くので、親近感も湧いてきます。金、銀、銅メダルと一打差ずつなので、いかに自分が崩れないかということが大切になってきます。終盤の安定ということがいかに大切で、難しいことだと感じました。

オリンピックといえば、「自分で自分をほめたい」という名言を思い出します。皆さんが生まれる少し前の1996年のアメリカのアトランタでオリンピックがありました。その時に女子マラソンで銅メダルを獲得した有森裕子さんのインタビュー時の言葉です。実は、高校時代はずっと駅伝の補欠選手で、結果を出せていなかったとき、京都で開かれた女子駅伝の開会式で、当時、京都陸協の審判員にフォーク歌手の高石ともやさんが来られており、「この大会に選ばれたことを、自分で自分をほめてあげてください」というような詩を読み上げたそうです。心に響いた有森さんはメモに残して、いつか自身が言えるようになることを目標に、日記にはさんでいたそうです。アトランタの前のバルセロナでは銀メダルだったのですが、その後けがをしたり、熾烈な代表争いを乗り越えたりした中での銅メダルだったので、こういう言葉が涙ながらに出てきたシーンが印象的でした。高石ともやさんはつい先日8月17日に82歳でお亡くなりになりました。皆さんはご存じないと思いますが、ボブディランに影響を受けて、社会の矛盾を歌にしたり、応援ソングを手掛けたり、戦争を知る世代として最近まで活躍されておられました。部落差別をテーマにした歌や反戦ソングなど私も教諭時代にホームルーム活動で使わせていただきました。

歌の題は「自分をほめてやろう」です。

この大会に選ばれたことをもう一人のあなたに よくここまできたねとほめてやってください
自分で自分をほめるのがとても自然なこと 頑張ったのは君だから 自分で決めた道だから
練習のつらさ負けた悔しさも それでも走り続けたわけも
君だけが覚えてる 今夜は自分をほめてやろう
見えるだろう ひとすじ道 君が選んだ長い道
見えるだろう ひとすじ道 みんなが君を待っている

高校時代に思い描いた夢で花咲かせるというのは、ずっと目標を持ち続けると難しいと思います。三年生は将来に向けての発進になるでしょう。1・2年生は、少しずつ目標が定まってくることでしょう。これからの長い道を見通せるようにそしてその先に自分をほめることができるようにしっかり前に進んでください。